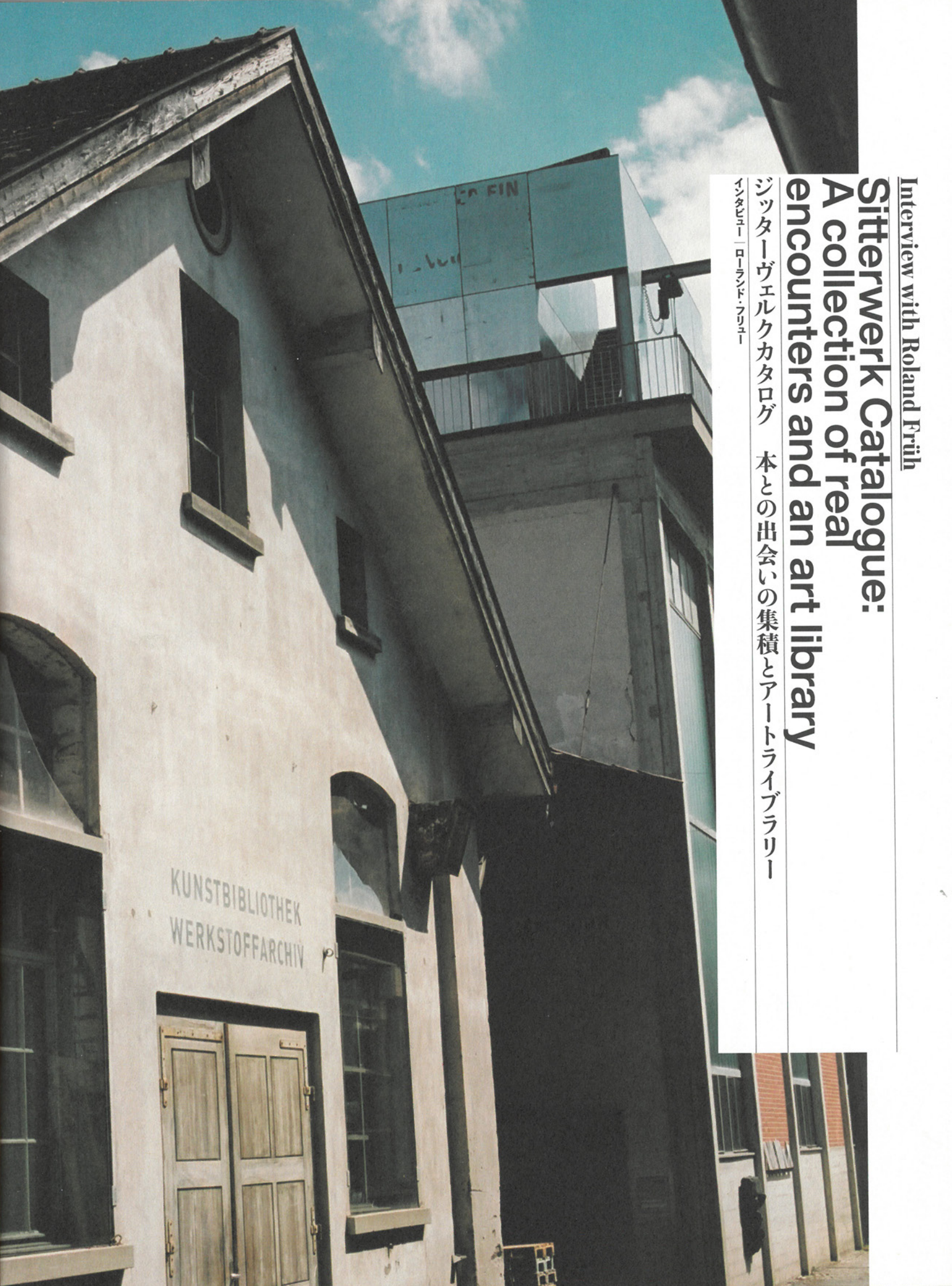


Interview with Roland Frith

# Sitterwerk Catalogue: A collection of real encounters and an art library

ジッターヴェルクカタログ 本との出会いの集積とアートライブラリー  
インタビューー ロールランド・フリッヒ



KUNSTBIBLIOTHEK  
WERKSTOFFARCHIV

アートブックフェアは、アーティストブックやZINEを介して文化や知識の交換を活発にするための場だ。しかし、フェアはあくまで一過性の空間であり、そこで流通する小規模な出版物の数々は、図書館等のアーカイブの対象にはならず忘れ去られていく。一方、世界各所で小さな出版活動が影響力をもつ時代にあつて、個人的な出版活動はどう評価され、後世のために収集保存されていくべきなのだろうか。学術的な分類法では解決できない収集保管のあり方について、スイスのジッターヴェルク財団でアートライブラリーの責任者を務めるローランド・フリューに聞いた。

Photography by Katalin Deér, Stiftung Sitterwerk

ジッターヴェルク財団の活動や、ジッターヴェルクカタログの組織や活動理念について教えてください。

ジッターヴェルク財団は、アートライブラリーや素材アーカイブ、アーティストインレジデンスプログラムを運営する公共団体です。スイス北東部ザンクト・ガレン郊外のジッターバレーにある工業地帯に位置し、展示スペースKesselhaus Josephsohnや、アート作品を制作するSt.Gallenアートファウンドリー、写真ラボが隣接しています。これらの施設と連携してアートやクラフトの制作や研究、保存を行い、互いの活動をいっそう充実させています。

ジッターヴェルク財団の主なねらいは、さまざまな質問に対応できる公共スペースやコレクション、専門知識を提供することです。例えば、「ミツロウの質感を知りたい」「ジャンボローニャの作品に使われた大理石はどの採石場のもの?」「制作プロセスの自動化は将来的にどうなる?」といった質問に答えています。多彩なトピックに関連する品々を所蔵し、専門的なリサーチやアイデア探しに役立つ素材や書籍、場所を提供しています。また、ここでの成果を、さまざまな活動、講演会、ツアーなどを通じて多くの人々と共有しています。

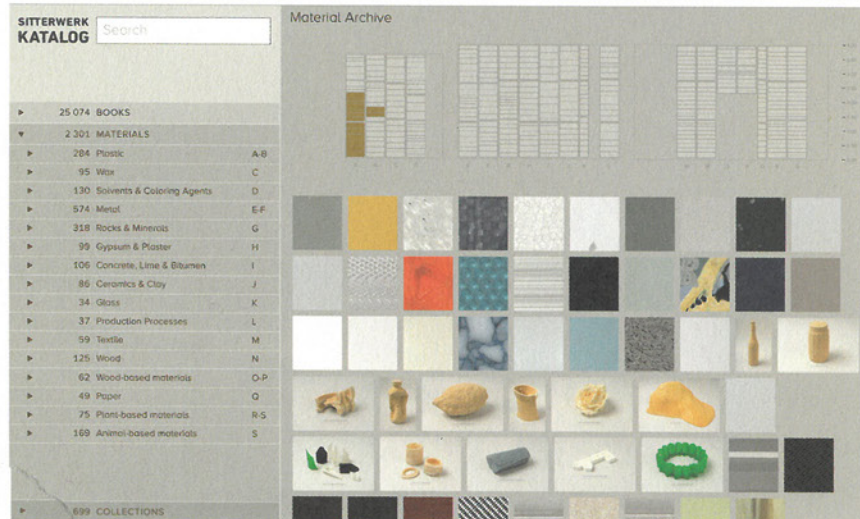
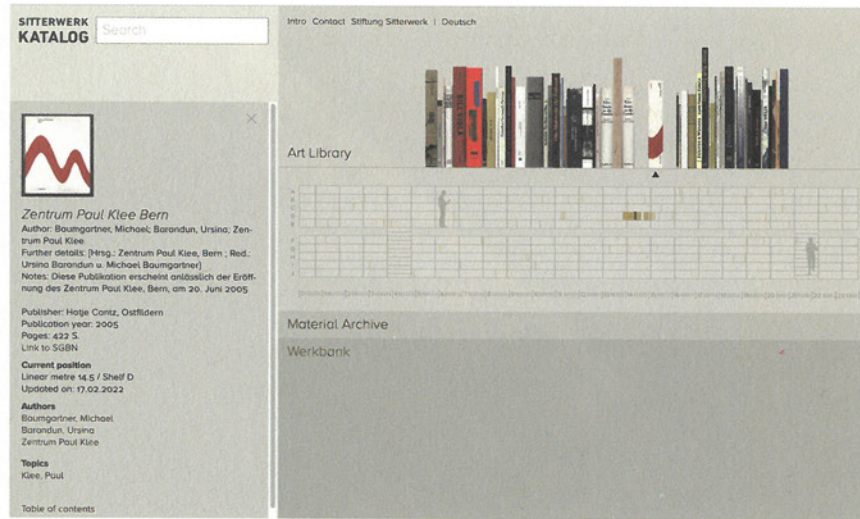
アートライブラリーの機能や、蔵書やウェブサイトの構成について教えてください。

ジッターヴェルクのアートライブラリーは、アート作品やアートの制作に関する約3万点の資料を収蔵しています。素材アーカイブは、原材料や加工品の特徴がわかる2,000点以上の素材サンプルやアイテムを収蔵しています。どちらのコレクションも文書化されており、ジッターヴェルクのカタログ ([www.sitterwerk-katalog.ch](http://www.sitterwerk-katalog.ch)) で閲覧できます。このオンラインカタログは、資料を入れた引き出しや本を並べた棚のイラストを使って、コレクションの空間的な構造を視覚化しています (fig. 01)。素材はその特徴に従って整理されていますが、本は「ダイナミックオーダー」という情報整理コンセプトを採用して、ユーザーが自由に置く場所を決められるようになっています。ダイナミックオーダーとは、ジッターヴェルク財団が設立初期の2006-2011年に考案・開発したシステムです。ダイナミックオーダーについては後ほど詳しく説明します。

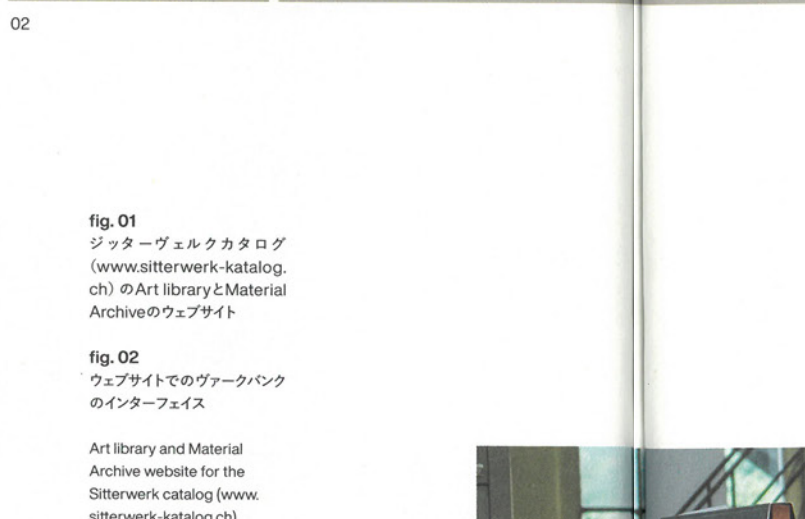
それから、RFID (電波を用いて非接触でデータを読み書きする技術) を読み取るアンテナが付いた「ヴァークバンク (ドイツ語で作業台の意)」と呼ばれるテーブルがあり、テーブル上に置かれたものをリアルタイムでデジタル画像として視覚化します。利用者は集めた資料をテーブルに並べ、自分のメモや説明を添えて保存します。保存したデータにはヴァークバンクのデジタルインターフェイスを使って自宅からアクセスで

ローランド・フリュー  
2014年からジッターヴェルク財団のアートライブラリーで収集と展覧会の責任者を務める。チューリッヒ大学で美術史を専攻し、2007年の卒業後はイギリス・ロンドンのデザイン出版社Hyphen Press、オランダ・アーネムの Werkplaats Typografie に勤務。デザインやタイポグラフィ、建築に関して定期的に執筆を行う他、スイスのローザンヌ州立美術学校 (ECAL) やスイス国外の学校でアート&デザイン理論の客員教授を務めている。





01



02

fig. 01  
ジッターヴェルクカタログ  
(www.sitterwerk-katalog.ch)のArt libraryとMaterial Archiveのウェブサイト

fig. 02  
ウェブサイトでのヴァークバンクのインターフェイス

Art library and Material Archive website for the Sitterwerk catalog (www.sitterwerk-katalog.ch)

き、内容の編集や印刷もできます fig. 02。

簡単に言うと、アートライブラリーと素材アーカイブに所蔵された実際の本や素材を自由に検索・閲覧でき、従来のライブラリーと違って本の置き場所が決まっていないため、誰かがまとめて置いた本をきっかけに思いがけない発見が生まれるようになっています。利用者はオンラインカタログでの絞った効果的なリサーチができ、集めた本や素材、画像、文章などのコレクションをヴァークバンクに並べて、メモや説明を付けて保存し、オンラインカタログに追加できます。カタログに追加されたリサーチ結果は、他の利用者が閲覧できます。こうして、利用者がヴァークバンクを使って自分のメモを追加することで、カタログには絶えず解説が加えられていきます。

アートライブラリーはダニエル・ローナー氏のコレクションを元に拡張しているようですが、新たにコレクションに加えるものやその選定方針について教えてください。

アートライブラリーでは、現代の彫刻や工芸、新しい素材、知識とその編成、自動化プロセスなどのトピックについて、常に最新の情報をコレクションに取り入れておくようになっています。もちろん、このように小規模なライブラリーでは、すべてのトピックを網羅することはできません。ですから、新たに収蔵するものはポイントを絞って購入しています。例えば、ジッターヴェルクで研究や展覧会プロジェクトを行ったら、それに関するアート、クラフト、制作、サステナビリティなどの新しい参考書籍を購入します。素材アーカイブに新たな素材を追加したら、それに関する書籍を購入します。アーティストインレジデンスプロジェクトやアート作品の制作ワークショップに参加したアーティストの出版物を、参加後も続けて収

蔵します。特定のアーティストや団体に関する過去の出版物が蔵書にない場合は、寄贈本の中から探してコレクションに加えています。アートブックの最新状況を把握するため、国内外の小規模な出版社から本を購入しています。Edition Finkなどの出版社や、アムステルダム市のSan SerriffeやパリのAfter 8といった書店からは、定期購読で本を購入しています。また、アートファウンダーの食堂のために料理本を購入しています。

RFIDによりアートライブラリーの蔵書を管理することで、書誌情報だけでなく、利用者の趣向もアーカイブが可能です。そうしたデータはどのように活用されているのでしょうか。

他のパブリックライブラリーと同じく、アートライブラリーでもすべての蔵書にRFIDタグを付けています。通常のライブラリーでは貸し出しのセルフサービス化や盗難防止のためにこの機能を使いますが、アートライブラリーでは読み取りアンテナの付いた2台の可動式デバイス(ロボット)と組み合わせて使っています。毎晩、2台のロボットが書棚のあいだを移動して、棚に置かれた本の位置情報を更新します。この更新作業でデータベースが常に最新の状態で保たれるので、本を置いてある場所が毎日変わっても、オンラインカタログにはその本のある場所が表示されます。

ですから、利用者は利用した本を書棚のどこに戻してもいいですし、探した本を自分のコレクションとして並べておくこともできます。そのコレクションを誰かが偶然見つけて、並んでいる本を入れ替えたり、別の本を追加したりするかもしれません。こうした書棚の状況が利用者の名前入りで記録されることはなく、ダイナミックオーダーの要素として匿名性が保

たれます。データの視覚化に興味があれば、毎晩更新される位置情報のリストにアクセスして蔵書の動きを再構築することもできます。過去にこれを行ったアーティストがいますが、財団ではこのデータの積極的な利用や分析はしていません。

個人のリサーチを記録する際はヴァークバンクの機能を使います。こちらは、利用者がヴァークバンクのデジタルインターフェイスを使って自分のコレクションを保存すると、そのままオンラインカタログにアップロードされます。カタログ上では検索可能な状態で公開されるので、誰でも閲覧したり、リサーチに利用したりできます。

利用者にはどのような人がいるのでしょうか？

すでに何かプロジェクトを始めている人が、制作方法について具体的な情報を探しに来ることがあります。また、收藏品や蔵書に興味をもって、特に目的はなくても閲覧に訪れる人もいます。利用者の職業は建築家やデザイナー、アーティストなど幅広く、歴史研究者、学生、家族連れ、そしてたまたま近くを通りかかった観光客も訪れます。利用には、一般的な美術館と同じように少額の入館料が必要です。会員になると無料で利用できます。

現在、世界の至るところでさまざまなアートブックが出版され、芸術文化の普及に貢献しています。また、各国のアートブックフェアもオンラインでの開催が可能となり、ますます世界の書籍を購入しやすい環境が整っています。そうした中で、ライブラリーとしてそれらを収集保管していく意義をどのように考えられていますか。

ブックフェアがオンライン開催を余儀なくされてからは、ブックフェアで本を購入していません。振り返ってみると、以前のブックフェアは、人と交流し、新しい本を見てまわり、購入するという、ちょうど良いバランスがとれていました。世界中で出版されるアートブックの中から必要な本を選ぶにあたって、ブックフェアには選りすぐりの本だけが並ぶので、わたしたちのコレクションにぴったりの数冊を簡単に見つけることができました。また、アーティストや出版社、販売店のちょっとした言葉から新しい本を知って購入を決めることがとても多かったです。こうなると、ブックフェアでの本の購入はかなり個人的な方法になります。このように小規模で専門的なライブラリーでは、個人的な方法でコレクションを増やすことは、ダニエル・ローナーやフェリクス・レーナー、そしてわたしの恩師であるマリナー・シュッツという最初のコレクターたちの伝統を受け継ぐことを意味します。

そして、本を物理的に保管しておくことは、今日や今年だけでなく、ずっと先の未来にわたってライブラリーを訪れるすべての人が蔵書を利用できることを意味します。ここでは、ジッターヴェルクや周辺施設を構成する人たちの共通の興味や価値観を反映した、2,000以上の素材サンプルと3万冊の本があります。誰でも閲覧できて、もしかしら思いがけない発見をして、新しいアイデアや作品が生まれるかもしれません。

結局のところ、良いライブラリーとは(おそらく良いブックフェアも)、良いバーと似ていると思います。ひとりでもふらりと訪れると、そこにはいつでも知っている人がいて、よく知らない人がいても気兼ねなく一緒に過ごすことができるし、初めて会った人とも一晩中語り明かすことができるのです。





ROLAND FRÜH

090

**Roland Früh**

Since 2014 he has been responsible for the collections and the exhibition programme of the Art Library at the Sitterwerk Foundation. After completing his degree in art history in Zurich in 2007, he worked for the design publisher Hyphen Press in London, the Werkplaats Typografie in Arnhem and has regularly written on contemporary design, typography and architecture. He has subsequently taught as a lecturer in art and design theory at ECAL, Lausanne and abroad.

**Please tell us about the activities of the Sitterwerk Foundation, the organization of The Sitterwerk Catalogue, and the philosophy behind its activities.**

The Sitterwerk Foundation is a public institution with the collections of the Art Library, the Material Archive and an artist in residency programme. The Sitterwerk is located on the industrial site in the Sitter Valley near St.Gallen, in direct proximity to the exhibition space Kesselhaus Josephsohn, to the art production company Kunstgiesserei St.Gallen (Art Foundry) and the Fotolabor. In this network, production, research, preservation, and the mediation of art and craft interpenetrate and enrich one another in diverse ways.

Primarily the Sitterwerk aims to provide a public space, collections and personal expertise to answer such questions as: What's the texture of bee wax? From which quarry does the marble from which Giambologna created his sculptures come from? What is the future of automated production processes? The collections of the Sitterwerk Foundation interlink such topics and many others and provide material, literature, and a space for precise research or inspiring browsing. The Sitterwerk Foundation shares what is developed here with a broad audience by means of a wide selection of activities, lectures, and tours.

**Please tell us about the roles and functions of the Art Library, Material Archive and Werkbank. We would also like to know how the three are linked and how the website functions.**

The Sitterwerk Art Library is a collection of about 30'000 books on art and its production. The Material Archive is an archive with more than 2000 material samples and objects to help explain the characteristics of raw and processed materials. Both collections are documented and made accessible jointly in the Sitterwerk catalogue on <[www.sitterwerk-katalog.ch](http://www.sitterwerk-katalog.ch)>. The online catalogue attempts to visualise the spatial organisation of the collections through the illustration of the drawers that hold the materials and the shelves that store the books. While the materials are organised according to their characteristics, the books follow the organisation-concept of the Dynamic Order and can be placed on the shelves by the users, wherever they see fit. The Dynamic Order is a principle and technology conceived and realised by the Sitterwerk Foundation in its early years between 2006 and 2011 – its principles are explained here further down in fifth question.

The Werkbank then is a table equipped with RFID reading antennas which allows to visualise in real time and as a digital representation of what visitors have placed on the table. The users then can arrange, annotate and save their research in the Werkbank digital interface and access their collections from home and further edit or print their findings.

To summarise briefly, the two physical collections of the Art Library and the Material Archive allow for free research or browsing, to be surprised by serendipitous findings on the shelf because the books are not arranged in a conventional way. The online catalogue helps to research more strategically, focused and the tool of the Werkbank allows to lay out, annotate and save personal collections of books, materials, images and texts to add these to the online catalogue where other users can again follow the same traces or results. As such the catalogue is constantly annotated by the notes the users decide to add through the Werkbank.

**Art Library is expanding based on Daniel Rohner's collection. But please tell us about your new collection and selection policy.**

With its collection the Art Library has always tried to keep

up to date within the topics of contemporary sculpture, craft, new materials, knowledge and its organization, and automated processes. For a small library such as the Art Library these topics are of course already far too broad to cover. The strategy for new acquisitions then is following several focus points: We accompany our own research and exhibition projects with new reference literature on art, production, craft, sustainability... We buy books that document the newly added materials in the material archive. We continue to document the artists that are working in our guest studios or in the Art Foundry workshops with their publications. We select from book donations to fill the gaps in our more historical parts of the collection, to complete our set of publications of certain artists or institutions. We buy publications from smaller, local and international publishers, to keep up to date with contemporary art book production. We have a standing order with a few publishers such as Edition Fink, and some bookshops such as San Serriffe in Amsterdam and After 8 in Paris, who send us a selection annually. And we buy cooking books for the Art Foundry's canteine.

**We heard that the art library uses RFID tags to manage the books. It means library can archive not only the bibliographic information but also the user's preferences. How is the collected data used?**

As many other public libraries we use RFID tags for all the books. Regular libraries use these for self-check-out and anti-theft. We're using RFID tags in combination with reading antennas that are mounted onto two moving devices. These two robots are each night traveling along the shelves and are overwriting the new positions of the books on the shelves. Like this, the books can change their positions daily, but thanks to the nightly inventory, the database is always updated, and the locations of the books in the online catalogue are always accurate, even if always changing.

As such, the visitors can place their research back in the shelf as they wish, and maybe leave their very own personal collection which then somebody else might find by chance, and probably will start changing or adding to it. These situations on the shelf are not recorded with the name of the user. They are part of the dynamic order and are anonymous. For someone with an interest in data-visualisation, it is possible to access the nightly produced lists of positions and to re-construct the movements of the books. This is something that has been done by artists in the past, but is not actively used or analysed by our institution.

To record personal research, we use the tool of the Werkbank. Here the visitors allow us to publish their research at the moment when they actively save their collections on the digital Werkbank interface. These collections are then public, searchable and visible in the online catalogue and available for everyone to browse and learn from.

**Who are the users?**

The collections are visited by sometimes people involved in a project already, searching about more specific information on how to make something. Or it's anyone just interested in objects and books, just browsing out of genuine curiosity. The professions vary a lot, it's architects, designers, artists, but also art historians, students, families and hikers who pass by chance. The Sitterwerk Foundation charges a small entrance fee, like a regular museum visit. Or you can become a member and then visit for free.

**Today, many different types of art books are being published everywhere in the world, contributing to the spread of art and culture. In addition, art book fairs in various countries can now be held online, creating an environment that makes it easier to**

INTERVIEW

091

purchase books from around the world. In this environment, what do you think is the significance of collecting and storing these books as a library?

Ever since book fairs have had to be organised online, we have not bought from a book fair. In retrospective, book fairs have always held the right balance of socialising, anonymous browsing and buying. To select from a global production of art books, the book fairs presented a sort of natural selection of which it then was easier to select again the few books that would really match our collection. Very often, it also needed a few words from the artist, publisher or seller to make us connect with the book and to convince me to buy it. The acquisition of books in book fairs then would become a quite personal strategy. But within a small, specialised library such as ours, following a personal approach to growing the collection in some of its areas also means to continue the tradition of the initial collectors such as Daniel Rohner or

Felix Lehner, and my predecessor Marina Schütz.

In the same way, storing these books physically means making them accessible for anyone who visits our library, not just today, this year, but in many years to come. The fact that they have a presence here, in combination with the more than 2000 material samples, with 30,000 other books, connected through shared interests, values, an ideology of the people who shape the Sitterwerk and its neighbouring institutions, and will allow anyone to meet these books from maybe an unexpected angle and lead to new ideas and works.

A library after all, and maybe book fairs too, may be not too different from a good bar: You can go there on your own, because there's always a few people you already know, some you've only seen a few times but don't mind hanging out with, and some interesting strangers that you'll end up talking to the whole night.

